

第5章 重点プロジェクト

基本計画における3つの「めざす姿」の実現に向けて、第4章の施策体系に掲げた取組を総合的かつ計画的に推進する必要があります。加えて、今後5年間で着実な成果を挙げるには、関連する取組を効果的に組み合わせた展開を図っていくことも必要です。

そこで、「めざす姿」のキーワードである「競争力のある農林水産業の展開」、「身近な農林水産業の理解」、「安全で元気な地域づくり」に着目して、本県の強みや特長を生かした12のテーマを設定し、その実現に必要な各種の取組を「重点プロジェクト」としてパッケージ化し、関係機関と連携して効果的な施策の展開を図ります。

番号	プロジェクト
1	次代の「やる気」応援！農業担い手プロジェクト ～農起業支援センターを核に、産地と一体となった就農・定着を促進します～
2	あいちの水田農業強化プロジェクト ～ニーズに応える品種の開発・導入や農地の集約化、経営の合理化を図ります～
3	あいちの施設園芸高度化プロジェクト ～ICTを活用した「見える化」と「カイゼン」により 産地の生産性を向上します～
4	「花の王国あいち」パワーアッププロジェクト ～日本一の花き産地にふさわしい取組を生産から消費まで一体となって展開し、 あいちの花を県内外に広めます～
5	あいちの畜産強化プロジェクト ～地域ぐるみで高収益型畜産を実現します～
6	あいちの森林資源を生かす林業プロジェクト ～「伐る・使う→植える→育てる」循環型林業を推進します～
7	あいちの水産業を支える伊勢湾・三河湾の生産力強化プロジェクト ～干潟・浅場の造成、漁村の活性化や資源管理の取組を進め、 水産資源の持続的利用を推進します～
8	いいともあいち・ブランド力強化プロジェクト ～県産農林水産物のブランド力強化とイメージアップを進め、 需要拡大を図ります～
9	直売所の交流&感動拠点化プロジェクト ～買って、知って、触れて農林水産業への理解促進を図ります～
10	農山漁村地域の防災・減災対策プロジェクト ～県土の強靱化を図り、農山漁村の豊かな暮らしを守ります～
11	緑豊かなあいちづくりプロジェクト ～森林・里山林・都市の緑を健全な状態で次世代に引き継ぎます～
12	三河山間地域の賑わいづくりプロジェクト ～やりがい、あじわい、ふれあいで都市との絆を深めます～

1 次代の「やる気」応援！農業担い手プロジェクト ～農起業支援センターを核に、産地と一体となった就農・定着を促進します～

一元的な就農相談窓口として県内8か所に設置した農起業支援センター※を核に、関係機関・団体等との連携を強化して、産地での受入体制の整備や定年帰農者の知識・技術の習得を支援するとともに、女性農業者の活躍を促進し、意欲ある多様な担い手の確保・育成を図ります。

背景

- 全国と同様に担い手の減少や高齢化が進行しており、存続が危ぶまれる産地が散在しています。
- 一方、近年、農業法人※等への雇用就農が増加する傾向にあります。
- 本県には、モノづくり産業で培われた多様なスキルを持った人材が多く、定年後の就農が期待されています。
- 女性農業者が一層活躍できる環境整備が求められています。

主な取組

【産地での受入体制の整備支援】

- ・ 関係機関・団体の連絡会議の開催や農起業支援センター相互の就農相談機能を強化します。
- ・ 産地の戦略の構築を支援し、地域の関係機関・団体が一体となった新規就農者などの受入体制を整備します。
- ・ 農業法人等が魅力ある就職先となるよう、農業法人等を対象とした研修を実施します。

【定年帰農者の知識・技術の習得支援】

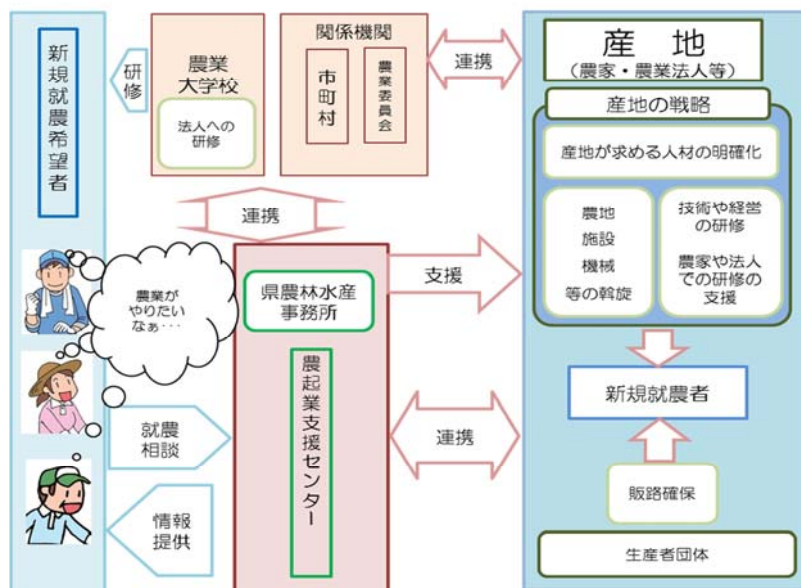
- ・ 市町村や農業団体等が実施する農業塾※と農起業支援センター、農業大学校※が連携して技術・経営指導や研修を行うことにより、定年帰農者のスキルアップを図ります。

【女性農業者の活躍促進】

- ・ 「あいち農山漁村男女共同参画プラン 2020※」に基づき、女性農業者の早期の経営参画と政策・方針決定の場への参画を促進します。

イメージ図

産地における新規就農希望者の受入イメージ



就農相談会



活躍する女性農業者

2 あいちの水田農業強化プロジェクト

～ニーズに応える品種の開発・導入や農地の集約化、経営の合理化を図ります～

消費者や実需者*のニーズに応える良食味米の生産拡大や小麦の高品質生産等により優位販売をめざすと同時に、ICT*を活用した経営の合理化や農地の集積・集約化*の促進、農業生産基盤*の整備により生産性を高めることで、水田農業を取り巻く環境変化に対応できる大規模経営体が核となってあいちの水田農業を支える、力強い生産・販売体制を構築します。

背景

- 食の多様化に加え、高齢化や人口減少などにより米の消費量は、毎年減少しています。
- これまでは国が米の生産調整を行ってきましたが、平成30年度からは農業者などが中心となり需要に応じた生産ができるよう取組を進めることとしています。
- 併せて、TPP協定*の発効などにより、今後水田農業を取り巻く環境は大きく変化することが予想されます。
- 本県では、生産量を上回る消費があり、ニーズに応える米の生産により県内の優位販売が期待されています。

主な取組

【需要に応え優位販売につなげるブランド化の推進】

- ・消費者や実需者のニーズに応える新しい良食味米の生産を拡大し、併せて、あいち県産米のブランド化を推進します。
- ・小麦品種「きぬあかり*」について実需の要望に対応した高品質・安定生産を推進するとともに、知名度の向上を図ります。
- ・収量性や需要の高い稲・麦・大豆の新品種の開発・導入を推進します。

【資材費の削減・経営の合理化】

- ・経営の合理化を図るため、関係団体と連携し、資材費の削減及びICTを活用した管理システムの導入などを推進します。

【農地の集積・集約化の促進】

- ・効率化・大規模化を推進するため、農地中間管理機構の活用などにより、各地域の実情に応じた担い手への農地の集積・集約化を促進します。

【農業生産基盤整備の推進】

- ・生産性向上を図る農地の整備や農業水利施設などの安定的な機能発揮を図るための更新整備を推進します。

イメージ図



3 あいちの施設園芸高度化プロジェクト

～ICTを活用した「見える化」と「カイゼン」により産地の生産性を向上します～

本県農業の特長である施設園芸の競争力をさらに高めるため、県内産地に「あいち型植物工場」(P17参照)の拠点づくりを推進し、ICT^{*}を活用して「見える化」した栽培環境データを基に生産者グループ自らが分析することで、環境制御技術の「カイゼン^{*}」を進めます。また、その成果を産地全体で共有することで、さらなる生産性の向上を図ります。

背景

- 本県は、野菜や花などの温室やハウスが多く、全国屈指の施設園芸産地です。
- しかし、産地では、担い手の高齢化や施設の老朽化などにより生産力の低下が懸念されています。
- 一方、農業総合試験場では、低コストで既存施設に導入可能な「あいち型植物工場」の技術開発を進めており、生産性向上への期待が高まっています。

主な取組

【あいち型植物工場の拠点づくり】

- ・ 主要な品目、産地ごとに「あいち型植物工場」の拠点づくりを推進します。
- ・ 技術の高い農業者のグループ化を進め、そのグループを中心に、県や関係機関が連携し、ICTを活用して「見える化」した環境データや栽培管理技術を分析・改善し、高度な環境制御技術を確立します。

【あいち型植物工場の「個」から「面」への拡大】

- ・ 確立した技術をマニュアル化し、産地全体で共有する体制を構築します。
- ・ 拠点の取組を広く普及し、本県施設園芸産地の競争力を強化します。

イメージ図



本県が開発した環境測定装置「あぐりログ」